



ニュースレター第49号では、令和2年から開始しました東北ハイテク研のプロジェクト「新技術導入による中山間農村の活性化（青森県新郷村プロジェクト）」の第2回活動 持続可能なむらづくりセミナー 第1回「10年後の農業の姿を考える」（新郷村だより2）について報告します。

### セミナーの目的

今回のセミナーは新郷村が主催で、そこに東北ハイテク研のコーディネータ（CD）が招かれて講演するという形で実施しました。セミナー開催目的は、以下のように記載されています。

村の人口は、20年後の2040年に1,337人、30年後の2050年には948人、65歳以上の高齢者の割合は2040年に6割を超えると推計されています。これからも豊かな資源と人々に恵まれた新郷村を維持していくためには、村民一人一人が今できることを「考えて」「行動し」「評価をして」「改善していくこと」を継続することが求められています。その「考え」のきっかけとしていただきたく、定期的にセミナーを開催することといたしました。

第1回目は、昔も今も村の産業を支えている「農業」について、「10年後の農業の姿を考える」をテーマに行います。

### 開催の日時と場所

開催日：令和2年12月11日（13:00～16:00）

開催場所：新郷村 都市農村交流施設 美郷館

参加者：村民、関係者60名

### プログラム

講演内容は、以下のプログラムの通りである。

門間 CD は、新郷村の10～20年後の将来の農業の姿に関する予測結果を示すとともに、日本農業・担い手の望ましい姿を展望した上で、中山間地域における集落単位の地域づくりの取り組み事例、農業法人による取り組み事例を紹介し、新郷村の地域づくりに参考になる情報を提供した。星野 CD は医療、福祉と農家・地域が連携した地域づくりの重要性を指摘するとともに、そうした連携を支える作物生産技術の現状と支援方向について情報提供した。

プログラム	
13:00～13:10	開会行事
13:10～14:40	セミナー 「新郷村の農業の将来と新たな担い手の姿」 東北地域農林水産・食品ハイク研研究所/農林水産省産官学連携コーディネーター 門間 敏幸 氏 「新郷村の村おこしのための連携のカたちと話題の品目紹介」 東北地域農林水産・食品ハイク研研究所/農林水産省産官学連携コーディネーター 星野 次汪 氏
	話題提供 「青森キクラゲの取り組みについて」 鹿田キノコ組合 福山 恵一郎 氏 「郷のきみの取り組みについて」 きみ部会 滝沢 和雄 氏
14:40～15:00	
15:00～16:00	「青森キクラゲ」と「郷のきみ」試食及び意見交換会



さらに、地元のきくらげ生産者とスイートコーン（郷のきみ）生産者からその取り組みの紹介がおこなわれた。講演終了後、本年9月に播種した大麦について、その多様な加工を考えるため、大麦大福の試食を行った。また、新郷村が推進している“キクラゲ”と“スイートコーン”の試食を行い、新郷村産農産物の素晴らしさを実感した（写真1、写真2）。

なお、今回のセミナー参加者の評価を見ると、セミナーの構成内容、講演内容、試食等、いずれも高い評価を得ており、東北ハイク研による新郷村活性化の持続的な取り組み支援に対して大きな期待が寄せられていることが確認できた。

今後は、大麦生産・加工のさらなる推進、新郷村に適する新作物の導入、地域づくり支援技術の移転等について、地元の要望に従って具体的に展開する予定である。



写真1 門間CD講演風景



写真2 上 試食品の準備状況  
下 試食品（大麦大福、きくらげ、とうもろこし）